



新機能および変更された機能に関する情報

この章は、次の内容で構成されています。

- [新機能および変更された機能に関する情報](#) (1 ページ)

新機能および変更された機能に関する情報

次の表は、現行リリースに至るまでにガイドの編成と特徴に加えられた主な変更点の概要を示しています。ただし、今リリースまでのガイドにおける変更点や新機能の一部は表に記載されていません。

表 1: [Cisco APIC] リリース 6.1 (4) の新機能と変更された動作

機能または変更	説明	参照先
Cisco ACI ボーダー ゲートウェイ	<p>Cisco ACIボーダーゲートウェイ (BGW) 機能は、次のように拡張されています：</p> <ul style="list-style-type: none"> • テナントL3Out からの着信トラフィックのサブネットに一致するポリシー タグ (pcTag) を構成します。 • セキュアグループ変換 (SGT) (論理構成体) を活用、pcTag オプションを使用して、複数の属性に基づいてネットワークリソースをセキュアグループタグに分類します。 • ドメイン全体の VRF 間トラフィックフロー (共有サービス) のサポート。 	ACI ボーダー ゲートウェイ
L3Out での OSPF 最大メトリックのサポート	<p>OSPF Max-Metric 機能により、ネットワーク内のルーティング情報のフローが制御されます。この機能により、ルータはローカルで生成されたリンクステートアドバタイズメント (LSA) を最大メトリックでアドバタイズできます。これにより、このルータがデータトラフィックの中継パスとして望ましくない状態になります。このアプローチは、動作可能になるまでデバイスが中継トラフィックに選択されないようにするため、スイッチのリロード時に特に役立ちます。</p>	OSPF 最大メトリック

表 2: [Cisco APIC] リリース 6.1 の新機能と変更された動作

機能または変更	説明	参照先
リモート リーフの復元力	<p>リモート リーフの復元力は、複数のリモート リーフで構成されるグループを作成することで実現されます。このグループが作成されると、グループ内のリモート リーフがフルメッシュの BGP EVPN セッションを形成し、エンドポイント情報と外部プレフィックス情報を交換します。WAN またはメイン POD に障害が発生しても、グループ内のトラフィックには影響しません。</p> <p>リモートリーフの復元力を展開する場合、グループ内のリモート リーフは、シスコ独自のプロトコルではなく、BGP EVPN ベースの標準的なアプローチを使用して通信します。</p>	リモート リーフの復元力

表 3: [Cisco APIC] リリース 6.1 の新機能と変更された動作

機能または変更	説明	参照先
OSPFv3 認証	OSPFv3 セッションの暗号化と認証のサポート。	OSPF IPsec ポリシーの作成
VXLAN サイト ID	ボーダー ゲートウェイ セット ポリシーを構成する際に、VXLAN サイト ID を指定します。	VXLAN サイト ID

機能または変更	説明	参照先
強制モードの VRF	VRF を強制モードで構成できるようになりました。リモート VXLAN EVPN ファブリックからアドバタイズされたエンドポイントとプレフィックスは、エンドポイント セキュリティ グループ オブジェクト (ESG) によって表されるエンドポイントグループに分類できます。リモート VXLAN エンドポイントにのみ適用される、新しくサポートされたセレクトアを使用します。	VXLAN ストレッチ ブリッジ ドメイン セレクトア 外部サブネット セレクトア

表 4: [Cisco APIC] リリース 6.1 (1) の新機能と変更された動作

機能または変更	説明	参照先
Cisco ACI ボーダー ゲートウェイ	Cisco ACI ボーダー ゲートウェイ (BGW) ソリューションを使用することにより、仮想ルーティングおよびフォワーディング (VRF) インスタンスとファブリック間のブリッジドメインを、シームレスに拡張できるようになりました。Cisco ACI BGW は、サイト内のノードおよびサイトの外部にあるノードと対話するノードです。Cisco ACI BGW 機能の概念は、単一の共通 EVPN 制御および転送ドメインを介して相互接続された、複数のサイトローカル EVPN コントロール プレーンおよび IP 転送ドメインと見なすことができます。	ACI ボーダー ゲートウェイ

機能または変更	説明	参照先
リモート リーフ スイッチのファブリック ポートをルーテッドサブインターフェイスとして L3Outs へ展開する	リモート リーフ スイッチのファブリック ポートを、ユーザー テナント L3Out および SR-MPLS インフラ L3Out に、ルーテッドサブインターフェイスとして展開できるようになりました。	SR-MPLS ハンドオフ
OSPFv2 認証	OSPFv2 でセキュリティを強化するために、OSPFv2 認証キーを指定できます。認証キーは一種のパスワードで、最大 8 文字まで指定でき、インターフェイスごとに割り当てることができます。	OSPF インターフェイス プロファイルの作成
OSPFv2 のキーのローテーション	OSPFv2 でセキュリティを強化するために、各キーの有効期間を指定して、キーのローテーションを設定できます。キーの有効期間が切れると、次のキーに自動的にローテーションされます。アルゴリズムを指定しない場合、OSPF はデフォルトの暗号化認証アルゴリズムである MD5 を使用します。	キー ポリシーの作成

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。